

# 「数理・AI・データサイエンスに関する教育プログラムに関する自己点検・評価」

到達目標「Society5.0に対応できる情報基盤教育の構築」において、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に関連する活動に関する自己点検・評価結果を示す。

<ul style="list-style-type: none"> <li>• 評価日 2022年2月21日</li> <li>• 評価組織 情報処理委員会（内 自己点検評価委員会）</li> <li>• 評価対象 2021年度の基礎科目 情報処理の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 評価基準【S・A・B・C】</li> <li>S：計画・目標以上の成果（又は効果）を上げられた。</li> <li>A：計画・目標どおりの成果（又は効果）を上げられた。</li> <li>B：計画・目標どおりではないが、ある程度成果（又は効果）を上げられた。</li> <li>C：計画・目標とした成果（又は効果）を上げられなかった。</li> </ul>
---	---

自己点検・評価の視点	取り組みと評価	評価結果
1. プログラムの履修・修得状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 昨年度まで「基礎情報処理」は、目白・西生田キャンパス別の履修制度になっていたが、今年度の目白へのキャンパス統合を契機に、新入生以降の制度を統一した。その結果、昨年度までは家政学部、文学部、理学部のみで必修、人間社会学部では選択科目であったが、今年度から全学部で必修科目とすることができた。これ以降の入学者は全員履修することになる。</li> <li>• 今年度より新たに選択科目「AI入門」、「データサイエンス入門」を開講した。これらは「基礎情報処理」を履修後に選択できる。「AI入門」は全15学科から受講生があり合計で36名、「データサイエンス入門」は10学科から合計21名と良好な受講状況であった。</li> </ul>	S
2. 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「基礎情報処理」では、学生の履修環境や学修状況に関するアンケートを実施している。「今後も授業でプログラミングを学習したいですか」に「はい71%（昨年度67%）」と良好な結果を得たことから、本プログラムの重要性が理解され、興味が高められたと考えられる。</li> <li>• 「AI入門」、「データサイエンス入門」は、「基礎情報処理」を履修後に選択できることからその学修成果を反映すると考えている。</li> </ul>	A
3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「基礎情報処理」では、学生の履修環境や学修状況に関するアンケートを実施している。2021年度の人工知能に関するプログラミング実習のアンケートにおいて、「機械学習のイメージがつかめた」に「はい70%（昨年度67%）」と良好な結果を得た。データサイエンスを扱う課題ごとの理解度（後期アンケート）では、最も高度な課題に対して「できた69%」、さらに「ある程度できた」まで含めると91%と良好な理解度を示す結果を得た。</li> </ul>	S
4. 後輩等他の学生への推奨度	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今年度より全学部の入学者に対して「基礎情報処理」は必修となっている。これにより推奨度に関わらず全学部の初年次から履修する。</li> <li>• 今年度入学者より、学内認定制度である「AI・データサイエンス・ICT教育認定プログラム」を開始した。今年度の対象者が履修できるのは初年次必修科目「基礎情報処理」のみであるが、学修成果の定着と来年度以降の選択科目履修の動機付けになることを期待している。</li> </ul>	A